
令和4年度香川県学習状況調査報告書について

令和4年度香川県学習状況調査を令和4年11月に実施しました。香川県教育センターでは、調査結果について成果や課題が明らかになるよう、児童生徒の学習・生活習慣の状況を分析し、本報告書にまとめました。それぞれの市町や学校の実情に照らし合わせて、本報告書を適切に活用した教育実践がなされるよう、活用支援を行います。

1 調査の概要

(1) 調査の対象

県内公立学校の小学校第5学年及び中学校第2学年の全ての児童生徒
〔学校数 小学校 157校、中学校 71校（附属学校及び県立学校を含む）〕

(2) 調査の時期

小学校：令和4年11月1日（火）～11月11日（金）

中学校：令和4年11月1日（火）～11月15日（火）

(3) 本年度の出題の主旨

「思考力・判断力・表現力等」を測る問題に重点を置いて出題し、「知識及び技能」を活用して課題を解決する力が育っているかどうかを測り、学習指導に係る検証改善サイクルの確立を図る。

2 調査の結果から

(1) 情報を選択し、読み取ったことをもとに考察したり、説明したりすること

- 資料から読み取った事柄を踏まえて自分の考えを書く記述式問題の正答率が低く、無解答率が高い。（p25、p19）
- 「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、令和3年度を上回っているが、「授業の内容が分かる」、「勉強が好き」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、令和3年度を下回っている。（p2）
- 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した児童生徒の方が、「授業の内容が分かる」と肯定的に回答している傾向が見られた。（p3）

(2) 社会性を高め、自己有用感を育むこと

- 「将来の夢や目標をもっていますか」、「地域の歴史や自然、産業について関心がありますか」の質問に対する回答と主体的な取組に関係性が見られた。（p5）

3 市町教育委員会や学校への支援

- 市町教育委員会や学校からの要請に応じて、指導主事を派遣し、調査結果に基づいた教育活動が行われるよう支援する。
- 電話等で調査結果の分析や活用を支援する。